



8/2 特殊詐欺防止啓発動画作成 徳島文理大学生に感謝状を贈呈

動画を作成したボランティアサークル「レインボーの会」に所属する学生6名に、動画作成に対する感謝状の贈呈があり、さぬき市防犯協会会長である大山市長から感謝状が手渡されました。大山市長は「多くの方に防犯動画を見ていただき、未然に被害を防げるきっかけになれば」と感謝を述べました。

動画視聴はこちら→



8/22 市政20周年記念 ラッピング電車が運行

琴電志度線でラッピング電車が8月22日から約1か月間運行されました。ラッピング電車は市観光協会が主催し、電車には市政20周年にちなみ、市マスコットキャラクターさつきちゃんの20種類もの表情が描かれました。

市観光協会事務局の土佐さんは「これからも市の特色を生かした取り組みを行い、市内外に向けてアピールしていきたい」と話していました。

ご寄附いただきました

このたび、企業版ふるさと納税としてご寄附いただきました三ツ星ベルト株式会社様に8月8日(月)、感謝状を贈呈しました。

【寄附企業】

三ツ星ベルト株式会社
兵庫県神戸市長田区浜添通4丁目1番21号



【問】政策課 ☎(087)894-1112

「TALKの原則」

昨年度、育成センターへの相談件数は146件でその内容は不登校友だち関係・進路等さまざまでした。相談電話やカウンセリングは、問題解決のためだけでなく自らの思いを語ることにより気持ちが落ち着き、自らと向き合うきっかけにもなっているようです。

困り事を抱えている子は周りに「迷惑を掛けたくない」「心配させたくない」と気丈に振る舞うことが多々あり、悩みが深い子ほど「陽キャラ」を演じ、周りの人々に悟られないようにしてしまう場合があります。日常的なかかわりの中で、「あれ?」と思ったらまずは「TALKの原則」で語り掛けてみましょう。

「TALKの原則」は、

- ①「Tell」
・誠実な態度で話しかける
- ②「Ask」
・不安や心配、困っていることについてははっきりと尋ねる
- ③「Listen」
・相手の訴えに傾聴する
- ④「Keep safe」
・安全を確保する



子どもの様子で気になることがあれば「何かあった?」と誠実な態度で話かけ「気に掛けている」と伝えること自体が心のケアとなり、後に「あの時心配してくれたから相談してみようか」と相談できる候補の一人となることもあります。何かを話し始めたら傾聴することです。

さまざまな訴えをする子は周りの人から「困った子」と見られがちですが、「困った子」ではなく、何かに「困っている子」であると考えながら対応することが大切です。その子の困り事は魔法みたいにすぐに改善することはないかもしれませんが、話をしてもらえれば一緒に困り事について考えるチャンスと時間ができると思えます。

しかし、その子に死にたい気持ちがあったり、その準備をしていたりした場合はその子の安全を確保することが何よりも優先されなければいけません。

(参考資料) 日本教育新聞 2022年6月7月号より

困った時には、人に迷惑を掛けよう。人に助けを求めることは、決して人に迷惑を掛けることではないのです。

育成センターへの相談は、相談室に來所しての面接・電話による相談があります。また、専門的なかわりが必要な時は専門機関を紹介します。

さらに、毎月第三土曜日の午後13時から臨床心理士によるカウンセリングの時間を設定する等の相談活動を実施しています。

【問】さぬき市少年育成センター ☎(0879)266-9976
少年相談専用電話 ☎(0879)266-9977